

## お す び

まず初めに、発災初期の大変な状況下において、被災した自宅をそのままに、また家族の安否も分からない中で、受傷、空腹、低体温等と戦いながら、この非常時を乗り切っていただいた職員に対し、心から慰労と感謝を申し上げたい。

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、これまでの想定にはなかった巨大津波という、まさに盲点を突かれた大地震であった。当消防本部も人的及び施設設備に多大な被害を受け、燃料不足、ライフラインの途絶、食料等の物資調達が困難な中で、これまで経験したことのない規模の災害対応を強いられた。そのような状況の中、全国の消防本部から過去最大規模の緊急消防援助隊が派遣された。当消防本部管内では1道4県の緊急消防援助隊に初期の救助活動から搜索活動まで長期に及ぶ支援をいただいた。

さて、震災から1年半が過ぎ、震災における各種各方面における消防活動について、警防対策本部各班及び現場指揮本部の各署所から活動状況の報告を受け、組織内活動等の改編の根拠とすべく検証報告書を取りまとめ、あわせて大規模地震対策対応マニュアルについても大幅に見直したところである。

今回は、組織に関わる検証報告書とは別に、広く圏域住民も活用できることを前提に石巻広域消防の活動を中心とした編さんを手掛けた。この記録は、石巻広域消防全体の活動状況をはじめとし、管内消防団の活動状況、緊急消防援助隊及び県内広域消防応援隊からの受援状況の記録、そして消防職員、消防団員のそれぞれの体験や思いをつづった手記（レポート）を挿入した構成となっている。

自らも被災し、大切な仲間や消防車両・施設等を失いながらも未曾有の大震災に立ち向かった消防職・団員の使命感と献身的な活動は、特に後に続く後輩たちには是非残しておきたいものであり、全国から駆けつけた緊急消防援助隊の救援活動は、我々消防機関はもとより、圏域住民にとっても何よりも心強い存在となり、大きな希望と励ましになったのではないかと考えている。また、消防職・団員の体験や思いは、ある意味においては一住民としての記録とも言えるものであり、自主防災活動や防災教育にも大いに生かされるものとなっている。

今回の震災では、地域の絆や自助・共助といった「支え合い」や「住民力」が大きな力を発揮し、困難を乗り越えるための原動力になったものと確信している。今後、大規模災害に対する地域防災力の向上は必須の課題であることから、今回の教訓を未来に生かし、「減災」の推進、「自助・共助」を促進するための普及啓発活動、地域防災リーダーの育成、学校での新たな防災教育、隣保共同による安否確認体制づくり（助け合いの仕組みづくり）の一助になれば幸いである。

結びに、全国からの様々なお支援によって、一步一步着実に復旧・復興は進みつつあるが、壊滅的な津波被害や地盤沈下など、復旧・復興にはまだまだ道遠いものがある。全国からいただいたご厚意を忘れず、そして、志半ばで職に殉じた仲間の意志をしっかりと受け継ぎ、住民生活の基本となる安全・安心を確保できるよう、引き続き努力してまいりたい。この度の大震災において、全国からお寄せいただいたご支援とご協力に重ねて深甚なる感謝を申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

平成24年9月

石巻地区広域行政事務組合消防本部次長 土井 兼一